
令和 7 (2025) 年度
美術館教育普及報告書



沖縄県立博物館・美術館

令和7（2025）年度

美術館教育普及報告書

目次

- 2 はじめに
- 3 本年度の取組
- 4 学芸員講座+キュレータートーク①
- 5 学芸員講座+キュレータートーク②
- 6 展覧会オープニング・ギャラリーツアー（ギャラリートーク）
- 7 ギャラリートーク・アーティストトーク
- 8 戦前映像上映会
- 9 シンポジウム・トークセッション①
- 10 シンポジウム・トークセッション②
- 11 シンポジウム・トークセッション③
- 12 記念講演会
- 13 ミュージアムツアー
- 14 慰霊の日関連催事
- 15 美術館・学校支援プログラム
- 16 鑑賞支援プログラム①
- 17 鑑賞支援プログラム②
- 18 児童・生徒の声
- 19 ボランティア活動
- 20 美術館 職場体験
- 21 教職員講座・教職員研修、その他研修の受け入れ
- 22 美術館 夏休み教職員研修①
- 23 美術館 夏休み教職員研修②
- 24 学芸員実習①
- 25 学芸員実習②
- 26 夏休み！こどもフェスタ 2025 ①
- 27 夏休み！こどもフェスタ 2025 ②
- 28 夏休み！こどもフェスタ 2025 ③
- 29 OKINAWA アートワークショップ 2025 ①
- 30 OKINAWA アートワークショップ 2025 ②
- 31 OKINAWA アートワークショップ 2025 ③
- 32 アートコンクール
- 33 アートコンクール審査講評
- 34 移動展 in 恩納村
- 36 令和6・7年度コレクション展「岸本一夫 オキナワデザイン」「沖縄の彫刻たち」「沖縄美術の流れ」
- 37 令和7年度コレクション展「やさしいにっぽん人」「屋良朝彦展 My Space 光と影」「沖縄美術の流れ」
- 38 企画展 沖縄戦後 80 年企画「戦ぬ前-沖縄文化の近代-」①
- 39 企画展 沖縄戦後 80 年企画「戦ぬ前-沖縄文化の近代-」②
- 40 企画展 沖縄戦後 80 年・ベトナム戦争終結 50 年 祈念「ベトナム、記憶の風景」①
- 41 企画展 沖縄戦後 80 年・ベトナム戦争終結 50 年 祈念「ベトナム、記憶の風景」②
- 42 企画展「つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45 人 -たとえば、「も」を何百回と書く。」①
- 43 企画展「つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45 人 -たとえば、「も」を何百回と書く。」②
- 44 美術館 事業報告①
- 45 美術館 事業報告②
- 46 美術館 事業報告③
- 47 美術館 事業報告④
- 48 さいごに

[はじめに]

沖縄県立博物館・美術館は、「おきみゅー」という愛称で親しまれ、おかげさまで開館18年目を迎えました。美術館の教育普及活動におきまして、今年度は例年と同様、様々な展示や催事を行って参りました。

さて、美術館の主な活動内容には「資料収集」・「保存管理」・「調査研究」・「展示公開」・「教育普及」の5つの柱があります。教育普及活動は、美術館が文化・芸術の発信拠点として、交流や皆様とのつながりを大切にしながら、誰もが美術を通して新たな価値に出会える場を創出し、より多くの皆様が美術に親しみ、楽しんでいただくことを目的としております。

本報告書は、2025年度に実施した美術館の企画展、コレクション展、それらに伴う関連催事、学校支援プログラム、各種ワークショップ、ミュージアムツアーなど、幅広い教育普及事業の活動内容をまとめたものです。

なお、今年度は作品鑑賞を楽しむアイテムとして「美術館・ゆんたく鑑賞のススメ～対話による鑑賞に挑戦してみよう！～」を発行しました。鑑賞ボランティアが編集委員となり、2011年以来続けてきた「対話による鑑賞」プログラムの集大成です。この冊子の冒頭に「基本的に美術に関する専門知識は不要です。作品についての情報や解釈を専門家や教師が一方向的に教え、伝えるのではなく、少人数のグループで作品を鑑賞しながら、それぞれ思ったこと、感じたことを自由に話し、多様な考えを尊重し合いながら作品を味わいます。」と記されています。他者とゆんたくすることによって、自分の感じたことの意味をさらに深く味わうことができる試みです。個別化と孤立化がすすむ現代社会において、美術作品を核にゆんたくし、1人ひとりのアイデンティティーが育まれる営みは、美術館の社会的使命の一つでもあります。

このように常に新しいことに取り組むことで、美術館と外部団体、個人とこれまでにない新たな結びつきを生み出し、新規来館者の開拓と新たな価値を美術館から発信することができたと考えております。

本報告書が、これまで以上に沖縄県立博物館・美術館をご愛顧いただく契機となりますよう期待するとともに、教育普及活動に対するご理解への一助になれば幸いです。

2026年3月 沖縄県立博物館・美術館 館長 里井洋一

[本年度の取組]

今年度、沖縄県は戦後 80 年の節目の年を迎えました。そのような大切な年に、当館では、アートを通し平和を考え、沖縄と向き合う機会として3つの企画展を開催しました。コレクションギャラリーにて開催した、沖縄戦後 80 年企画「戦前前沖縄文化の近代―」（令和 7 年 11 月 1 日（土）～令和 8 年 2 月 1 日（日））を皮切りに、企画ギャラリーにおいて、福岡アジア美術館の巡回展である沖縄戦後 80 年・ベトナム戦争終結 50 年祈念「ベトナム、記憶の風景」（令和 7 年 11 月 22 日（土）～令和 8 年 1 月 18 日（日））を開催しました。そして、3つめの展覧会は、滋賀県立美術館の巡回展である「つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45 人―たとえば、「も」を何百回と書く。」（令和 8 年 2 月 22 日（日）～5 月 10 日（日））を、現在も開催中です。

それぞれの展覧会に付随する関連催事として、オープニング・ギャラリーツアーや、学芸員講座+キュレータートーク、シンポジウムや、映像上映会、記念講演会等を行いました。その中で、特に印象的だったのは、展覧会の出品作家でもある石川文洋氏のご自宅のある長野と沖縄の会場をリモートで繋いだ「ベトナム、記憶の風景」のシンポジウムです。本来ならば、会場にてお話をさせていただく予定だった石川氏は、健康上の理由からリモートでのご出演となりましたが、石川氏に会いたいと会場に足を運んでくださった方も多く、ベトナムと沖縄の平和について考える良い機会となりました。

また、蓄音機で戦前のレコード音楽を聴くという「戦前前沖縄文化の近代―」のギャラリートークでは、車いすに乗ったご高齢の方が、音楽に合わせて右手を大きく振り指揮を行いながら、懐かしい音楽を口ずさんでいる様子に感動しました。帰り際、お声掛けさせていただくと、「楽しかったよ～！」と、満面の笑みでお返事をして下さり、当館の教育普及事業の持つ役割を再確認することができました。

さらに、「つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45 人―たとえば、「も」を何百回と書く。」の山田 創氏の記念講演会は、参加者が少なく広報や集客についての課題は残るものの、講話の内容が大変わかりやすく勉強になりました。今年度開催したそれぞれの展覧会が、ご観覧いただいた皆様にとって、アートを通し様々なことを感じ、考える機会となっていたら幸いです。

今年度のコレクション展は前半で「岸本一夫 オキナワデザイン」「沖縄の彫刻たち」「沖縄美術の流れ」を開催し、後半は「屋良朝彦 My Space 光と影」「沖縄美術の流れ」と、「やさしいにっぽん人」を上映しています。コレクション展は次年度 9 月 6 日（日）まで開催予定なので、今後の関連催事を楽しみにお待ちください。

さて、今年度は、年間を通して累計 16 校の学校や関係機関に「鑑賞支援プログラム」を活用していただきました。ご来館いただいた学校団体や関係機関からは、「美術や美術館について知ることができた」「会話をしながらの鑑賞は、とても楽しかった」「また美術館に来たい」などの感想やお礼のお手紙をいただき、職員一同大変喜んでます。

また、今年度は、対話による鑑賞を行うための実践方法等を掲載した冊子「美術館・ゆんたく鑑賞のススメ～対話による鑑賞に挑戦してみよう！～」を当館鑑賞ボランティアの皆さんと共に制作することができました。冊子を手にした学校の先生方からご好評をいただいたことは、今年度の大きな成果だと思えます。

毎年恒例の「夏休み！こどもフェスタ」は、4 コマのワークショップを開催しました。また、子どもから大人まで参加できる「OKINAWA アートワークショップ」では、リピーターのお客が増えたこと、さらに県外から参加される方もいらっしゃいました。ワークショップを楽しんだ後、慌ただしく空港へ向かう姿が印象的な出来事でした。少しずつではありますが、当館のワークショップの楽しさが、お客様に伝わり始めているのではないかと感じています。今年度も、どのワークショップも大変好評で、参加していただいた皆様が作品制作に没頭している一生懸命な姿と、楽しそうな笑顔が私たちスタッフの励みとなりました。

県内児童・生徒を対象とした「第 9 回アートコンクール」には、901 点もの応募がありました。今年度は、テーマを「幸せ」としましたが、自分自身が思ったこと、感じたこと、考えたことを表現した作品には、美術（アート）が好きな児童・生徒の皆さんの、何気ない日常の中の「幸せ」に対する様々な思いが込められていたように思います。

以上のように、今年度も、多くの個人・団体と連携し、当館の教育普及事業の充実を図ることができました。次年度も、様々なことを模索しながら、教育普及事業の充実を図っていききたいと思います。

学芸員講座+キュレータートーク①

当美術館では、学芸員が普段の仕事から知り得た成果を発表するために、学芸員講座を開催している。内容は、学芸員が企画した展覧会の見どころや、修復に関することなどさまざまだが、学芸員にとって専門家としての責任を再確認し、来館者が知りたいことや求めているものに目を向ける大切な機会である。

また、キュレータートークでは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また開催するにあたり進めてきた調査・研究の成果を発表している。観覧者が、学芸員の話聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、観覧者に展覧会がどう伝わったかを知る貴重な機会となり、今後に向けての情報収集となる。

回	月 日	曜	講座名	担当	参加人数
1	8月16日	土	「沖縄の彫刻たち」学芸員講座+キュレータートーク 美術品の保存修復について～保存修復の現場から～	梶原正史	19
2	11月29日	土	「戦前前—沖縄文化の近代—」学芸員講座+キュレータートーク	大城さゆり	18
3	1月10日	土	「ベトナム、記憶の風景」学芸員講座+キュレータートーク	豊見山 愛	21



●梶原正史学芸員



●大城さゆり学芸員



学芸員講座＋キュレータートーク②

美術館企画展における「学芸員講座＋キュレータートーク」は、展示の背景やテーマ、作品選定の意図を専門的知見に基づいて来館者に伝える場である。調査過程や作家との対話、展示構成の工夫など、通常は見えにくい展覧会制作の裏側を共有することで、鑑賞体験を多層的にし、展示理解を深める役割を果たす。また、参加者との対話を通じて展覧会を社会へ開き、双方向的な学びの場を形成する機会でもある。

【講話要旨】「アートを通してみる、沖縄とベトナム」

「ベトナム、記憶の風景」展は、植民地期のインドシナ美術学校から戦争、ドイモイ、グローバル化へと続く歴史の中で、個人と共同体の記憶がどのように形づくられ、表象されてきたかを探る試みである。独立宣言や南北分断などの出来事は文化に深い影響を残した。スピヴァクやバーバの議論、語りの主体や展示に潜む権力構造を照らし、混交的な歴史をもつ沖縄を読み解く視座とも響き合う。

本講座では、沖縄とベトナムの経験を重ね、中心と周縁が交錯する地点から語られざる声に耳を澄ませたい。本展に並ぶ城間喜宏《亜熱帯の島から》と與那覇朝大《ベルベット・ペインティング》は、両地域の記憶の重なりを象徴する。沖縄戦後 80 年、ベトナム戦争終結 50 年の節目に両作を同じ空間に置く意義は大きい。

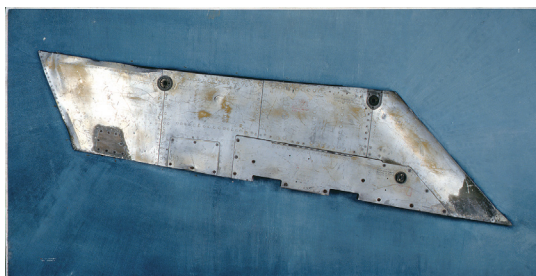
城間作品には嘉手納基地 B52 墜落事故の破片が貼り込まれ、沖縄が戦争の後方支援基地として機能した現実が刻まれる。與那覇作品は、米軍兵向け肖像画制作を通じ、統治下で女性の身体や土地がいかに消費されたかを示す。ベルベット画の技法は、作家が沖縄の美とアイデンティティを模索した痕跡でもある。

両作は、戦争・基地・記憶・表象を通して沖縄とベトナムの歴史的交差を明確に示す。北爆支援基地化や「ベトナム村」など、住民が戦争構造に巻き込まれた経験を踏まえると、作品は地域が背負う記憶の層を可視化する証言として立ち上がる。

本展が投げかける問いは「風景は誰のものか」である。風景は国家や観光のためではなく、人々の記憶と経験が折り重なって立ち上がる場である。しかし政治や経済はその風景を再編し、記憶を書き換えてきた。アーティストたちはその力に抗い、沈黙や断片を掘り起こし、風景を記憶の層として可視化する。風景を見るときは、その背後に潜む歴史と権力を読み解く行為である。本展は戦争、都市化、ジェンダー、民族性を通して、私たち自身の社会を見つめ直す視点を提示する。(豊見山 愛)



●豊見山 愛学芸員



●城間喜宏《亜熱帯の島から》1968 年

展覧会オープニング・ギャラリーツアー（ギャラリートーク）

展覧会のオープニングを彩るギャラリーツアー（ギャラリートーク）は、担当学芸員の展覧会に対する思いや作品解説を聞くことのできる貴重な機会である。担当学芸員にとっては、来場者との対話を通し、新たな情報を得ることができるとも、お互いのコミュニケーションから生まれる情報交換等も大切である。今年度は、3つの企画展「戦ぬ前—沖縄文化の近代—」「ベトナム、記憶の風景」「つくる冒険 日本のアール・ブリュット45人—たとえば、「も」を何百回と書く。」が開催され、その都度オープニング・ギャラリーツアー（ギャラリートーク）を実施した。

■ 沖縄戦後 80 年企画「戦ぬ前—沖縄文化の近代—」関連催事「オープニング・ギャラリーツアー」

作品を目の前に、また来場者の反応を見ながら解説ができるギャラリーツアーは企画者冥利に尽きる催事で、幸いにも「戦ぬ前」展では琉球歴史文化の日（無料開放日）の開催となった。来場者と会話し、直接質問を受けられる催事のため、研究や企画の刺激になり、後の調査に繋がることもある貴重な場である。

ツアーは冒頭で展覧会の企画意図を話し、各作品の裏話などを交えながら、展示構成の順路に沿って行った。伊差川 新《蒔絵小屏（チータ）》（東京藝術大学蔵）の「動物園のチーターを観察したがずっと寝ていて動かないため、解剖学の先生に相談したところ『頭は猫で体はシェパードだ』といわれ、それを参考に制作した」というエピソードには笑いも起こり、来場者と顔を合わせてコミュニケーションをする重要性を改めて実感した。（大城さゆり）

講師：大城さゆり（展覧会担当学芸員）

日時：令和7年11月1日（土）10:00～11:00

場所：美術館コレクションギャラリー1・2・3

参加者：10人



● 「戦ぬ前」大城さゆり学芸員



● 「ベトナム、記憶の風景」豊見山 愛学芸員



● 「ベトナム、記憶の風景」栗原ふみ氏



● 「つくる冒険」山田 創氏

ギャラリートーク・アーティストトーク

ギャラリートーク、アーティストトークは、作家自身や作家とゆかりがある、あるいは研究している方から話を聞く機会である。作家自身から作品、制作に関する思いを直接伺ったり、ゆかりのある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて解説いただくことで、新たな気付きやより深い理解に繋がっていくといえる。



●ギャラリートークの様子①



●ギャラリートークの様子②



●山城政幸氏（右）



●大城さゆり学芸員、三島わかな氏

■沖縄戦後 80 年企画「戦前—沖縄文化の近代—」関連催事「ギャラリートーク」

「戦前」展の催事として、戦前期に親しまれていた SP レコードの音源を蓄音機で聴く会を催した。音楽を録音して聞けるようになった近代、民謡や流行歌など様々なレコードがリリースされた。その中から時代を象徴するものや沖縄に関するものを取り上げて、講師の三島わかな氏（近現代日本音楽研究者）が曲目を選び、山城政幸氏（蓄音機コレクター）から大型蓄音機を借用し、膨大な SP 盤コレクションから厳選したレコードをお持ちいただいた。また、山城氏とその友人・知人も下準備から再生までご協力いただき、80 年以上前の音源が会場に響き渡った。収集の経緯や機材の解説を山城氏が、楽曲の解説を三島氏が行い、戦中に至る音楽受容の変遷を学ぶ機会にもなった。蓄音機から流れる音の懐かしさから「椰子の実」や「隣組」を口ずさむ来場者もあり、戦争を経験した世代から若者まで幅広い世代が同じ場を共有し、戦前・戦中の音楽文化を体感することができた。（大城さゆり）

講 師：三島わかな氏（近現代日本音楽史研究・メディア文化研究者）、山城政幸氏（蓄音機コレクター）
大城さゆり（展覧会担当学芸員）

日 時：令和 8 年 1 月 24 日（土）14:00～15:30

場 所：美術館コレクションギャラリー（ホワイエ）

参加者：49 人

戦前映像上映会

当館ではこれまで、所蔵作品や所蔵作家など、当館ゆかりの映像資料を館内で上映する機会を何度か設けてきた。今回は、沖縄戦後 80 年企画「戦ぬ前—沖縄文化の近代—」の関連催事として、個人蔵や新聞社蔵の戦前映画を借用し、上映会を行った。



●上映後のトークの様子①



●上映後のトークの様子②



●真喜屋 力氏、世良利和氏



■沖縄戦後 80 年企画「戦ぬ前—沖縄文化の近代—」関連催事「戦前映像上映会」

戦前は那覇にも多くの映画館があり、人気のメディアであった映画だが、そのフィルムは戦災で失われたものが多い。そうした状況で、沖縄にまつわる戦前の映画を見る機会は貴重である。

上映は三本立てで①護佐丸誠忠録（平良良勝、石川文一 / 47min/1934 年）、②沖縄（東京日日新聞社、大阪毎日新聞社 / 14min/1936 年）、③海の民 沖縄島物語（東亜発聲映画 / 27min/1942 年）の順で行い、沖縄の演者たちはどのように表現していたのかという面と、沖縄が日本からどう見られ表現されたかという面の双方を見られる構成とした。

世良利和氏（沖縄映画史研究者）と真喜屋 力氏（映画監督）による上演後のトークは、沖縄芝居の役者や当時の検閲、そして戦中へ向かう中でどのような沖縄イメージが定着したか等、映画と時代への洞察を深める内容となった。質疑応答で客席から「護佐丸誠忠録」監督のご子息・平良 敏氏が、良勝氏に聞いた撮影エピソードも語り、沖縄の戦前期の映像文化を記憶する機会となった。（大城さゆり）
講 師：世良利和氏（沖縄県立芸術大学芸術文化研究所 共同研究員）、真喜屋 力氏（映画監督）

大城さゆり（展覧会担当学芸員）

日 時：令和 7 年 12 月 7 日（日）13：30～16：30

場 所：3 階講堂

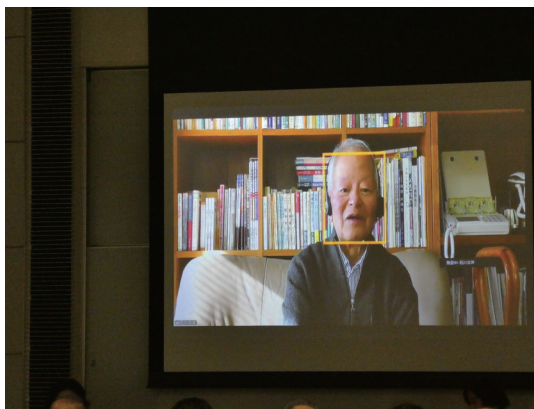
参加者：41 人

シンポジウム・トークセッション①

企画展及びコレクション展への理解を深める目的で、作家や有識者を招いたシンポジウムや、トークセッション等を開催している。企画展のシンポジウムやトークセッションは、展示テーマを多角的に深め、専門家と参加者が対話する場をつくる重要な機会である。展示では伝えきれない背景や社会的文脈を共有し、展覧会の意義をより立体的に示す。また、議論は記録として残り、後の研究資源にもなる。こうした場を通じて、美術館は地域社会に開かれた「知の公共空間」としての役割を強める。



●シンポジウムの様子①



●リモートで参加する石川文洋氏（長野県）



●左から栗原ふみ氏、豊見山 愛、若林千代氏



●シンポジウムの様子②

■ 沖縄戦後 80 年・ベトナム戦争終結 50 年祈念「ベトナム、記憶の風景」関連催事 シンポジウム「50 年と 80 年ーベトナムと沖縄が語る芸術と平和」

沖縄戦終結から 80 年、ベトナム戦争終結から 50 年という節目の年に、私たちは「記憶の場」をテーマにシンポジウムを開催した。戦争の記憶はいかに語り継がれ、芸術はその語りをどう支えてきたのか、その問いをめぐる多様な視点が交差した。まず、福岡アジア美術館の栗原ふみ氏が、植民地期から現代に至るベトナム近現代美術の歩みを作品とともに紹介した。続いて、本展担当の豊見山から、沖縄の芸術が育んできた平和への想像力とその可能性を提示した。さらに報道写真家・石川文洋氏が、戦場で出会った人々の姿や、記憶が現在に及ぼす影響を語り、南ベトナムの農村や沖縄の基地の現実を静かに浮かび上がらせた。ファシリテーターの若林千代氏（沖縄大学教授）は、登壇者の視点を巧みに結び合わせ、歴史・表象・地域性をめぐる議論を深めていった。（豊見山 愛）

登壇者：栗原ふみ氏（福岡アジア美術館学芸員・展覧会担当学芸員）、石川文洋氏（報道カメラマン）、豊見山 愛（当館担当学芸員）

ファシリテーター：若林千代氏（沖縄大学教授）

日 時：令和 7 年 11 月 23 日（日）14：00～17：00

場 所：博物館講座室

参加者：61 人

シンポジウム・トークセッション②



●トークセッションの様子①



●トークセッションの様子②



●粟国恭子氏、岡本亜紀氏



●新城郁夫氏、大城さゆり学芸員

■沖縄戦後 80 年企画「戦ぬ前—沖縄文化の近代—」関連催事「トークセッション」

「戦ぬ前」展では展示の時代背景に大きく関わる文化政策、工芸、文学についての理解を深める内容を企画。トーク前半は、講師に分野別に解説いただいた。粟国恭子氏（沖縄県立芸術大学芸術文化研究所共同研究員）には、沖縄県の博覧会参加の動向から文化政策について、新城郁夫氏（琉球大学教授）には沖縄出身者の詩や小説について、岡本亜紀氏（浦添市美術館学芸員）には沖縄漆芸の近代化について紹介いただいた。

後半はセッション形式で、話題は言語、人々の移動、植民地とのつながり等、分野横断的な展開を見せた。「沖縄」を表現しようとしたときの困難や表現「出来なさ」に話が及んだ一方で、庶民の名前が残る、女性が学問を修め創作し、名を残すことが可能となったという面にも触れ、多面的に近代の文化を見る催事となった。（大城さゆり）

登壇者：新城郁夫氏（琉球大学教授）、岡本亜紀氏（浦添市美術館学芸員）

粟国恭子氏（沖縄県立芸術大学芸術文化研究所 共同研究員）

大城さゆり（展覧会担当学芸員）

日 時：令和 7 年 12 月 13 日（土）14：00～16：00

場 所：3 階講堂

参加者：31 人

シンポジウム・トークセッション③

■つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45 人—たとえば、「も」を何百回と書く。
 関連催事 記念シンポジウム「沖縄のアール・ブリュットとアートキャンプの活動」

沖縄のアール・ブリュットを牽引してきたアートキャンプの皆さんにご登壇いただき、関連映画の上映と、主な活動である「素朴の大砲」展のこれまでと、これからについてお話しいただいた。

(前田比呂也)

登壇者：今村清輝氏（アートキャンプ・那覇みらい支援学校）、

金城真緒氏（アートキャンプ・社会福祉法人若竹福祉会）、前田比呂也（沖縄県立博物館・美術館）

司 会：和多野千帆氏（アートキャンプ・美咲特別支援学校 総合教育センター分教室）

日 時：令和 8 年 2 月 28 日（土）14：00～16：30

場 所：美術館講座室

参加者：31 人



●シンポジウムの様子①



●シンポジウムの様子②



●今村清輝氏、和多野千帆氏



●金城真緒氏、前田比呂也

記念講演会

■つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45人—たとえば、「も」を何百回と書く。関連催事
記念講演会「日本のアール・ブリュットについて」

2月22日(日)「つくる冒険」展記念講演会が実施された。本展企画者の滋賀県立美術館、山田 創氏の講演は、欧米、そして日本のアール・ブリュットの歴史を振り返りながら、作品やその作品が生み出される様子の動画も紹介され、好評を博した。(前田比呂也)

登壇者：山田 創氏 (滋賀県立美術館学芸員・展覧会担当学芸員)

日 時：令和8年2月22日(日) 14:30～16:00

場 所：3階講堂

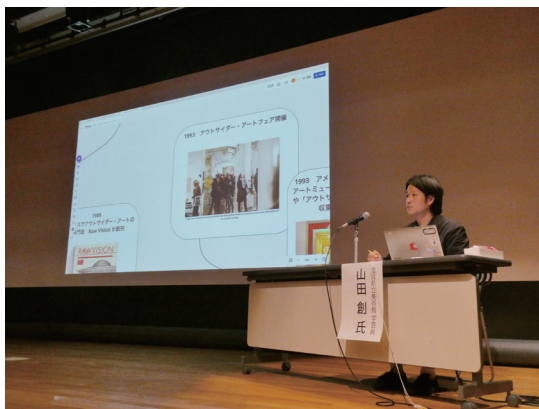
参加者：26人



●講演会の様子①



●講演会の様子②



●山田 創氏



ミュージアムツアー

普段見ることのできない美術館の裏側への案内と、コレクションギャラリーの鑑賞を取り入れたツアー。今年度は、保存修復担当学芸員が美術館の役割や学芸員の仕事を解説した。特に修復室での説明は、参加者の多くの関心を集める内容となった。

内 容：美術館の裏側を紹介し、コレクションギャラリーを案内する。

開催日時：令和7年6月7日（土）10：30～12：00（参加者12人）

7月19日（土）10：30～12：00（参加者12人）

担 当：梶原正史（保存修復担当学芸員）

6/7(土)・7/19(土)

美術館 2025

ミュージアムツアー

-普段は見ることのできない美術館の裏側や美術館コレクションギャラリーを学芸員がご案内します-

※修復室の見学

※修復された作品について解説

担 当 梶原正史学芸員（保存修復担当）

時 間 10:30～12:00

定 員 12人（事前申込制）

場 所 美術館バックヤード・美術館コレクションギャラリー

問合せ TEL 098-941-8200

- ・6/7は5/11より、7/19は6/19から電話、来館（総合案内）、WEBにて受付
- ・美術館コレクション展の当日券が必要
- ・70才以上、障がい者手帳をお持ちの方とその介助の方1名、県内小・中学生は無料
- ・小学生以下は保護者同伴
- ・開始10分前に美術館入口前に集合

WEB受付はこちら

あなたの仲間に出会う
沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

【お問合せ】098-941-8200
【開館時間】9:00-18:00（金・土は20:00まで）
【休 館 日】日曜日（有期休館の場合は要予約）
メンテナンス休館7/2（水）～7/10（木）



●ツアーの様子

【学芸員の仕事を伝えていくために】

学芸員が行うミュージアムツアーの利点は、私たちが日々行っている通常業務を紹介できる点である。展示、保存、普及、収集、調査研究とそれぞれに独立した業務のようでありながらも、相互に補完しあう関係であるということ。また、バックヤードにて施設や設備の紹介をすることで、いかに美術館の作品が守られてきたのかを知るきっかけにもなる。大きくいってしまえば、美術館の役割と言い換えていいかもしれない日々の業務を、理解していただく工夫を担当の学芸員が考え伝える機会となっている。

また、学芸員と一緒にバックヤードを歩くので、自然と距離も近くなり、質問などの受け答えもその場でできる。特に中学生や高校生の場合、学芸員講座など少し堅い場面では、質問もしづらい雰囲気もあると思うので、とても良い機会だと感じている。バックヤードツアーが、学芸員という職業に興味を持つきっかけになれば幸いである。（梶原正史）

慰霊の日関連催事

沖縄戦の体験者も高齢となり、私たちの身近にも悲惨な地上戦について語ってくれる人が少なくなってきた。学校現場でも年々、沖縄戦を主とした「平和教育」を実践することが難しくなっているのではないだろうか。当館では2017年より、博物館・美術館連携事業として慰霊の日関連催事を行っている。戦争の愚かさと命の大切さを絵本の読み聞かせを通して伝え、改めて平和について考える機会とすることを目的としている。

【日 時】 展示期間 令和7年6月3日(火)～6月29日(日)
 読み聞かせ催事 令和7年6月21日(土) 14:00～15:00

【会 場】 1階エントランス

【講 師】 金城明美氏(絵本作家)

【参加者】 68人

【内 容】 博物館・美術館教育普及連携催事で、館内1階エントランスにTVモニターを設置し、平和関連の絵本の読み聞かせ映像の上映と、沖縄県立図書館協力のもと本の紹介も行った。また、6月21日(土)には、金城明美氏に実際に読み聞かせを行っていただいた。



●展示の様子



●金城明美氏



●読み聞かせの様子

沖縄県立博物館・美術館 慰霊の日関連催事 無料

「おきみゅーで平和について考えよう！」
絵本読み聞かせ

6月23日の慰霊の日を前に、おきみゅーでは絵本の読み聞かせを行います。今年は、読み手に絵本作家の金城明美氏をお招きし、少女が体験した戦争の記憶を描いた『おきなわ・メッセージ つるちゃん』、『ケイ 命がおしえてくれたもの- つしま丸・沖縄戦』の2冊をご紹介します。物語を通して平和について考えます。どうぞお気軽にご参加ください。

『おきなわ・メッセージ つるちゃん』

『ケイ 命がおしえてくれたもの- つしま丸・沖縄戦』

2025
6.21 (土)
14:00～15:00
 (エントランス受付 13:30)

読 本：金城明美 文・絵
 『おきなわ・メッセージ つるちゃん』
 『ケイ 命がおしえてくれたもの- つしま丸・沖縄戦』

読み手：金城明美(きんじょうあけみ) 絵本作家
 沖縄市立美原小・北美小初任者研修拠点校指導教員、放課後等デイサービスハーモニー(那覇市)にて保育所等相談支援員、日本KABCアセスメント学会会員・おきなわ KABCアセスメント研究会会長

読み手 金城明美氏(絵本作家)
 会 場 エントランスホール
 座 席 30席程度(当日先着)
 予約申込 098-941-8200
 〒906-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

あなたの沖縄に届こう
沖縄県立博物館・美術館
 Okinawa Prefectural Museum and Art Museum
 【開館時間】9:00-18:00(金・土は20:00まで)
 【休 館 日】月曜日(月曜祝日の場合は翌平日休館)

おきみゅーと一緒にでも安心
 (感染症/お天候/設備故障)
 レンタル高ペリペリカー完備しています！



美術館・学校支援プログラム

沖縄県立博物館・美術館「美術館 学校支援プログラム」



●「美術館 学校支援プログラム」の内容

1. 鑑賞支援プログラム（小・中・高・特別支援学校）：美術館にて
2. 美術館出前講座：学校にて
3. 教育普及キットの貸し出し：学校へ貸出し
4. 小・中・高職場体験や、研究・研修会の受け入れ：美術館にて
5. 心の教室・適応指導教室等と連携し、児童・生徒の居場所づくりの提供：美術館にて



1. 鑑賞支援プログラム

- 学校・学級等で申し込みいただいた団体に、鑑賞ボランティアによる「対話による鑑賞」を行う。
 - 社会科・総合学習（平和教育等）の位置づけで、作品や展示資料から沖縄を知る手がかりとして当館を活用する。
 - キャリア教育の側面から、美術館の役割や仕事の内容について教育普及担当学芸員が説明する。
- ※学校の要望等に応えながら、学校と美術館で授業を作り上げていく。



- 「鑑賞支援プログラム」の細かい流れについては、学校側との調整を行う。
- ※申込は、当館のwebサイトより→ <https://okimu.jp/guide/group/>



※詳しいお問い合わせは
 沖縄県立博物館・美術館（美術館班）
 主任学芸員 教育普及担当 玉城早苗
 TEL:098-851-5402（美術館直通）
 FAX:098-941-3730
m8-016@museums.pref.okinawa.jp

2. 美術館出前講座（教育普及担当学芸員が学校へ行き授業を行う）

- 教育普及担当学芸員が、美術館の役割や学芸員の仕事、来館時の鑑賞マナー等について説明する。
- ティーチャーズキット（※1）、アートカード（※2）を使用し、鑑賞授業のレクチャーや授業の支援を行う。

3. 教育普及キットの貸し出し

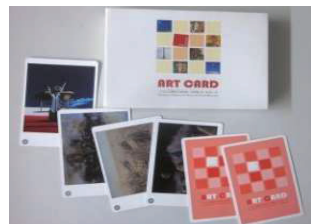
- 実物大の複製画（レプリカ）、ティーチャーズキット（※1）、アートカード（※2）の貸し出し。

4. 小・中・高の職場体験や、先生方の研究・研修会の受け入れ

- 収蔵作品の鑑賞や当館の鑑賞支援プログラムの紹介、バックヤードの見学が体験できる。

5. 心の教室・適応指導教室等と連携し、児童・生徒の居場所づくりの提供

- 学校や各関係機関と連携し、児童・生徒の居場所づくりの提供を行う。



- ※1 ティーチャーズキット：作品を複製したパネル（解説 CD 含む）
- ※2 アートカード：美術館収蔵作品の中から厳選した 60 作品をプリントしたカード

鑑賞支援プログラム①

「作品をどうみたらよいかわからない」鑑賞の方法について、よく聞かれる言葉である。美術館には、その問いに答える様々なプログラムがある。当館では、鑑賞者が自分のペースで展示を見る鑑賞方法と、学芸員やボランティアがサポートする「対話による鑑賞」を実施している。後者は、1人で見ただけでは見えてこなかったことに気づく等、対話を行うことでより深い鑑賞体験につながっていく。児童・生徒の美術に対する知識・理解をサポートする目的で、学校と美術館が連携して行うのが当館の鑑賞支援プログラムである。

	月日(曜日)	学校名	学年	参加人数
1	7月17日(木)	那覇市教育委員会・教育相談課(あけもどろ学級)	中3年	5
2	9月24日(水)	那覇市教育委員会・教育相談課(きら星学級)	中2年	2
3	10月1日(水)	Hope International Academy Okinawa	小3年	14
4	11月5日(水)	沖縄市立諸見小学校(出前授業)	3年	63
5	11月13日(木)	八重瀬町立新城小学校(出前授業)	4年	67
6	11月27日(木)	八重瀬町立新城小学校	4年	66
7	12月4日(木)	那覇市立城北中学校・特別支援学級	1~3年	17
8	1月30日(金)	那覇市立石嶺小学校(出前授業)	3年	139
9	2月12日(木)	沖縄県立浦添工業高等学校・デザイン科	1年	76
10	2月13日(金)	那覇市立石嶺小学校	3年	131
11	2月13日(金)	沖縄県立芸術大学(教育学集中講義)	3~4年・院生	41
12	2月25日(水)	沖縄県立大平特別支援学校(中学部)	1年	39
13	2月26日(木)	沖縄県立美咲特別支援学校 (総合教育センター分教室・高等部)	2・3年	30
14	3月4日(水)	糸満市立米須小学校・大度分校	4~6年	12
15	3月5日(木)	八重瀬町立新城小学校	4年	64
16	3月13日(金)	糸満市立三和中学校・大度分校	1~3年	22



●美術館について講話(出前授業)



●来館時、講話を聞く様子

鑑賞支援プログラム②



●美術館について講話を聞く様子



●美術館のマナーについて学ぶ



●アートカードで学ぼう（出前授業）



●アートカードで学ぼう（来館時）



●ボランティアとの「対話による鑑賞」の様子



●「つくる冒険」を鑑賞



●「戦ぬ前」自由鑑賞

ボランティア活動

当館の美術館ボランティアスタッフは、学校団体に向けた鑑賞ツアーをサポートする鑑賞ボランティアと、美術館関連書籍・新聞などを整理する資料整理ボランティア、ワークショップをサポートするワークショップボランティアの3つのグループに分かれ活動している。今年度は、新規ボランティアの募集を行い、4名のボランティアが活動をスタートした。また、「対話による鑑賞」を気軽に楽しんでいただく目的で、鑑賞ボランティアを中心に編集委員会を立ち上げ、鑑賞に特化した冊子を作成した。おきみゅー独自の鑑賞方法を紹介し、学校団体にとどまらず、一般来館者にも「対話による鑑賞」を楽しんでいただける内容とした。

【ボランティア研修会】

	実施日	プログラム	内容
1	4月23日(水)	活動説明会と研修会	ボランティア証交付、職員紹介、今年度のスケジュール確認、美術館鑑賞の手引きについて
2	5月28日(水)	館外研修	館外研修(那覇市歴史博物館館外研修)
3	6月25日(水)	研修会	当美術館における「対話による鑑賞」について
4	7月16日(水)	展示解説	コレクションギャラリー 各担当学芸員による解説
5	8月16日(土)	普及催事	「沖縄の彫刻たち」美術館学芸員講座+キュレータートーク 美術品の保存修復について～保存修復の現場から～
6	9月10日(水)	研修会	先輩ボランティアから学ぶ
7	10月29日(水)	研修会	対話による鑑賞実践
8	11月29日(土)	普及催事	「戦前前-沖縄文化の近代-」学芸員講座+キュレータートーク
9	12月17日(水)	研修会	「戦前前-沖縄文化の近代-」対話による鑑賞実践
10	1月10日(土)	普及催事	「ベトナム、記憶の風景」学芸員講座+キュレータートーク
11	2月18日(水)	研修会	「沖縄美術の流れ」展示解説、対話による鑑賞実践
12	3月11日(水)	研修会	対話による鑑賞実践、一年のまとめ

【鑑賞ボランティア対応 鑑賞ツアー】

	実施日	学校名	参加人数
1	8月14日(木)	第62回沖縄県造形教育研究大会(沖縄県造形教育連盟)	8人
2	11月27日(木)	八重瀬町立新城小学校	66人
3	2月21日(土)	OKINAWA アートワークショップ	3人



●研修の様子



●編集委員会の様子



●対話による鑑賞冊子

美術館 職場体験

職場体験とは、生徒が一般企業などで働く人たちとコミュニケーションを取りながら、実際に仕事を体験する学習活動である。当館では、団体鑑賞プログラムの対応、資料整理など学芸員のサポート業務と、展覧会会場の交流員やもぎり、ミュージアムショップでの接客など、来館者の対応にも挑戦する。今年度は、2校の高校生6（4+2）人、1校の中学生4人を受け入れた。



●美術館について講話



●アートカードで学ぼう！



●バックヤード見学の様子



●コレクション展、鑑賞の様子①



●資料整理の様子



●コレクション展、鑑賞の様子②

教職員講座・教職員研修、その他研修の受け入れ

当館では、教育委員会や教育研究所、学校等からの要請を受け、「校内研修」や「中堅教諭等資質向上研修」等の受け入れを行っている。今年度は、県立高校の教諭3人を受け入れ中堅教諭等資質向上研修を実施した。また、東村立高江小学校、那覇市立城東小学校から依頼を受け、校内研修も実施。さらに、沖縄県教育庁那覇教育事務所主催の県民カレッジ「沖縄県立博物館・美術館バックヤードツアー」も例年通り行った。

夏休みには、今年度から当館独自の教員向け研修を3日間実施し、2018年から2024年まで共催で実施していた、沖縄県造形教育連盟の教職員向け研修には講師として参加した。

1. 東村立高江小学校「校内研修」(出前講座)

実施日：令和7年7月22日(火)

参加者：13人

2. 那覇市立城東小学校「校内研修」

実施日：令和7年7月25日(金)

参加者：27人

3. 令和7年度「中堅教諭等資質向上研修・社会体験研修」

実施日：令和7年8月13日(水)

参加者：県内高等学校 教諭3人

4. 第62回造形教育研究大会(沖縄県造形教育連盟)

実施日：令和7年8月14日(木)

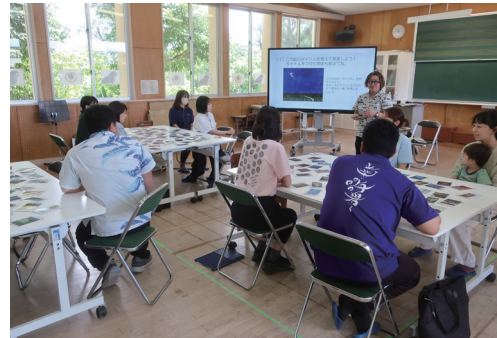
参加者：28人

5. 令和7年度 県民カレッジ

「沖縄県立博物館・美術館バックヤードツアー」

実施日：令和7年8月15日(金)

参加者：24人



●高江小・校内研修の様子



●城東小・校内研修の様子



●中堅教諭等資質向上研修の様子



●沖縄県造形教育連盟教員向け講座
ボランティアと「対話による鑑賞」の様子



●県民カレッジ・バックヤードツアーの様子

美術館 夏休み教職員研修①

当館では、2009年度より「教員向け講座」を行っている。2018年度から2024年度までは、沖縄県造形教育連盟と共催で実施していたが、今年度からは、県立博物館・美術館独自の研修を3日間にわたり実施した。

■ 令和7年度 沖縄県立博物館・美術館

美術館「夏休み教職員研修」

1. 実施日：令和7年8月7日（木）

場 所：美術館講座室

対 象：小・中学校教諭

参加者：20人

2. 実施日：令和7年8月8日（金）

場 所：美術館講座室

対 象：高校・特別支援学校教諭

参加者：25人

3. 実施日：令和7年8月9日（土）

場 所：県民アトリエ・こどもアトリエ

対 象：保育・幼稚園教諭

参加者：9人

● 7日（木）・8日（金）の講師

- ・ 玉城早苗（教育普及担当 主任学芸員）
- ・ 豊見山 愛（企画展「ベトナム、記憶の風景」担当 主任学芸員）
- ・ 大城さゆり（企画展「戦ぬ前—沖縄文化の近代—」担当 学芸員）
- ・ 前田比呂也（企画展「つくる冒険 日本のアール・ブリュット45人—たとえば、「も」を何百回と書く。」担当 美術館班班長）
- ・ 今村清輝氏（アートキャンプ、沖縄県立那覇みらい支援学校 教頭）

● 9日（土）の講師

- ・ 大中原千陽氏（小田原短期大学 助教）
- ・ 本村佳奈子氏（沖縄県立芸術大学 非常勤講師）



● 小・中学校教諭等向け研修の様子



● 高校・特別支援学校教諭等向け研修の様子



● 保育・幼稚園教諭等向け研修の様子

美術館 夏休み教職員研修②

【小・中・高校・特別支援学校の先生方の感想】

- ・アートカードを使った授業に興味があったが、今まで見たことがなかったため、情報を優先せず純粋に感じることを楽しむことができ、こんな風に誰でも絵を楽しめる鑑賞活動が、沖縄の画家達でできるんだ！と感動した。ぜひ、問いかけ例を参考にしたい。
- ・鑑賞指導は、お互いの作品を見合うことが多かったので、アートカードで楽しくできそう。知識がなくてもできる。自由に感じていいんだと、美術への敷居が低くなった。
- ・美術館の役割や学芸員の仕事について分かりやすく説明して下さったので良かった。素晴らしい作品が沢山あるので、児童にもみせたいと思いました。アートカードで授業をしたいと思います。面白かったです。
- ・アートカード借りたいです。教科書を使って観る活動より、カードになると手に取りやすく実際にワークで経験ができて良かった。ニシムイの場所は知らなかったので行ってみたいと思います。
- ・歴史とアートを結びつけて考えたことがあまりなかったので、「ベトナム、記憶の風景」や、「戦ぬ前－沖縄文化の近代－」のお話は興味深い内容でした。
- ・美術館を活用したいと思いを抱えつつ、業務の忙しさから実現できずにいます。今回の研修で具体的な活用方法や申し込みから実施への流れ等、丁寧に紹介して頂き、大変勉強になりました。美術教員として生徒達に様々な経験をさせてあげたいと考えています。自分ができるところから挑戦してみたいと思いました。
- ・ベトナムは、昔、旅行で行ったことはありますが、アートの視点から考えたことがなかったので面白かったです。「戦ぬ前」も、戦後や戦時中のことについてはよく目にしますが、その前についてあまり考えたことがなかったです。他の国でいろんな争いがあったり、起こりそうなところもある今、興味深い展覧会になると思いました。ぜひ、見に来たいです。
- ・歴史的な流れと、作品についてと盛りだくさんで、さすが美術館の研修だと感動しました。学校に戻ってやってみたいことが色々と思いつき元気ができました。
- ・美術の先生だからこそ、生徒に与えられるもの。肯定できること、関わり方があってハッとさせられた。日々の大変さに負けずに美術の教員として頑張っていきたい気持ちになれた。
- ・涙がとまりません。前田さんの話を聞くと、もっと学校を楽しもう。先生として生徒と一緒に楽しめることをやろう！という意欲がわきました。
- ・教師は、評価をするために基準を作りますが、それを見て子どもは正解を探します。美術は、もっと自由に楽しくできたらいいなと思いました。自分がどう「美術」と向き合うかがわかれば、もっと美術館を活用できる気がします。学芸員の皆さんの強い思いを知り、美術館のファンになりました。
- ・盛沢山な1日でした。新たな学びから日頃の悩みまで幅広く知り、自分に落とし込むことができました。学ぼうとすること、諦めないこと、フラットに興味を失わないこと、自分なりに教員生活を楽しんでいこうと思いました。
- ・来年もまた企画をお願いします。日々の忙しさで美術館から足が遠のくこと、時間がつれない等、子ども達よりまず、自分が楽しめないといけないと思った。ありがとうございます。

【保育・幼稚園の先生方の感想】

- ・色々な表現方法、どれが「正解」なのではなく、みんなの作品ひとつひとつが「正解」なんだよってことを伝えていきたい。表現する楽しさを味わっていただけたらと思う。よくやる活動で悩みがあったので、今日参加することで解決することができました。早速、制作したいと思います。みんなで一つの物を作ることがなかなかなく、すぐに実践できる内容で楽しかったです。
- ・楽しすぎました！自分が「楽しむ」ことの大切さも知れたので、現場で活かすときには伝える言葉が変わって来るかなと思いました。自分の世界に没頭できる楽しさ。面白さ。色々な展開に繋がる制作でした。先生方のサポート、声掛けがとても良かった。空間が自由でワクワクした。ビー玉、絵の具、紙、このシンプルな材料が生み出す可能性が素晴らしかったです。また参加したいです。
- ・乳幼児期から感触（五感）を大切にしながら、自由に触れる機会を作ってあげる環境づくりが大切なのかと思う。保育園でも色々な材料に触れる機会を多くもち小学校へ繋げていけたらと思います。

学芸員実習①

美術館では、開館3年目の2009年から学芸員実習の受け入れを行っている。受け入れにあたっては、例年、学芸員資格養成課程を有する県内の大学を優先し、人員枠にゆとりがある場合、県外大学に在籍する県出身の学生を優先的に受け入れ、定員は10名以内としている。時期は8月中旬から2週間で、美術館学芸員全員でそれぞれの専門分野の講義を行っている。今年度は、沖縄県立芸術大学の学生10人と京都芸術大学の学生1人を受け入れた。

●実施期間：令和7年8月18日（月）～8月29日（金）

【美術館学芸員実習カリキュラム】

		実習内容（午前）	実習内容（午後）
8月18日	月	開講式、柳工（柳工）、学校支援プログラム等	アートカード・対話による鑑賞の実践、その他
19日	火	資料収集の概要、展示の実際	資料調査実習（平面資料）、資料の分類情報処理
20日	水	IPM 講習、保存管理の概要	修復の実際、修復の実習
21日	木	展示公開の概要、展示公開の実際	資料調査実習（写真＋二次資料）
22日	金	美術館学芸員の調査・研究、調査研究の実際	解説パネル作成
25日	月	課題研究（グループワーク）	課題研究（グループワーク）
26日	火	課題研究（グループワーク）	課題研究（グループワーク）
27日	水	課題研究（グループワーク）	課題研究（グループワーク）
28日	木	課題研究（グループワーク）	課題研究（グループワーク）
29日	金	共通課題研究の発表、閉講式	実習のまとめ→実習記録簿等の提出



●教育普及講座



●調査研究講座



●資料収集講座



●保存修復講座

学芸員実習②



● 展示公開講座



● 課題研究の様子①



● 課題研究の様子②



● 課題研究発表会の様子

《実習生レポートより》※一部抜粋

- 学芸員の裏側の仕事を、学芸員として働いている方々に直に教えて頂き、学芸員として必要な知識を学べただけでなく、今後、博物館・美術館に訪れる際に、その展示の裏側の仕事についても気づくことができるのはとても嬉しい。学べば学ぶ程、皆様忙しい中時間を割いて講義をしてくださったことを実感し、ここで得た知識を今後の制作に活かしていこうと思う。
- 今回の実習では、教育普及、調査研究、保存管理、展示公開といった博物館施設の核になる活動について、沖縄県立博物館・美術館及び現代の日本の博物館施設の実情や、実際の体験を通して学んだ。教育普及では、対話による鑑賞の実践を通して、自由な思考や視点を育てる場所としての役割を学んだ。美術にふれることは、人生を豊かにするものだと思っているが、では、実際にそのように足を運んでもらうきっかけを作るか、どのように美術を楽しんでもらえる土壌をつくれるか、といった課題に対してどのような取り組みを行っているのか知ることができた。
- 4日目には文化財の保存管理についての講義と実習を受けました。個人的にはこの回が最も興味深かったです。講義では、燻蒸処理の失敗事例や展示中に作品が破損してしまった等の具体的なケースを提示していただき、単なる理論ではなく、現場で起き得る問題点について学べたことはとても有益でした。バグトラップの種類や、設置場所によつての違い、実際に発生したヤスデによる被害の事例等についても説明があり、害虫管理の実務面に対する理解が深まりました。特に、文化財害虫カードの資料を用いた授業は非常に楽しく、各種害虫の特徴、発生しやすい環境、被害の出方や対処法、実例を交えて学べたためとても良かったです。
- 課題研究では、アール・ブリュットとも呼ばれる作家と、その作品についてプロモーションして展示の企画を行った。作家のことを深く知り、作品を理解することの重要性や何を軸とするのか決めることの難しさを感じた。グループでは、全員の意見を反映させながら、楽しくまとめることができたので、非常に満足している。10日間、とても有意義な時間となったのは、前田さんをはじめ学芸員の方々、職員の方々のお力添えがあつてのことだと改めて感じている。これからも、美術館に関わっていきたいと思ひます。

夏休み！こどもフェスタ 2025 ①

毎年恒例となっている夏休みこどもフェスタは、未就学児から中学生までの参加があった。それぞれの講座を通して、子どもたちに造形的な技能及び表現力を身につけさせ、子どもたちと美術館との関わりを深めることを目的としている。

※ 会場：県民アトリエ・こどもアトリエ

日程	午前	午後
7月26日 (土)	9:30~11:00 ●コロコロボール×カラフル絵画 ① 内容：コロコロボールの動きから現れる不思議なアート。絵の具に触れずに、絵の具遊びを行った。 ② 講師：大中原千陽氏（小田原短期大学 助教） 本村佳奈子氏（沖縄県立芸術大学 非常勤講師） ③ 対象：0~2歳の乳幼児と保護者 ④ 参加者：4組（4人）	13:00~15:30 ●自由なヒトの色とカタチ ① 内容：美術館の展示室で石垣克子さんの作品の模写にチャレンジした。また、コルクで人形（立体作品）も制作した。 ② 講師：石垣克子氏（画家） ③ 対象：小3~中3 ④ 参加者：8人
7月27日 (日)	9:30~12:30 ●ミニ漆喰シーサーづくりに挑戦！ ① 内容：首里城の瓦を使って、ミニ漆喰シーサー作りを体験した。 ② 講師：田端 忠氏、堀切元気氏、沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合の皆さん ③ 対象：小1~中3（小3以下は保護者同伴） ④ 参加者：20人	14:00~17:00 ●『対話による鑑賞』 おしゃべりしながら鑑賞してみよう！ ① 内容：美術館教育普及担当学芸員と一緒におしゃべりしながら作品を鑑賞した。 ② 講師：玉城早苗（教育普及担当学芸員） ③ 対象：小学生（小2以下は保護者同伴） ④ 参加者：6人

夏休み！こどもフェスタ 2025

7/26(土) 7/27(日) 7/29(火) 7/30(水) 7/31(木)

会場：沖縄県立博物館・美術館 (県民アトリエ、こどもアトリエ、博物館実習室ほか)

受付時間：9時~18時(9時~8時) 当日必着

25 郵送のみ
〒901-8200 沖縄県浦添区浦添1-1-1
TEL:098-941-8200

美術館 県民アトリエ、こどもアトリエ、美術館コレクションギャラリー

7/26 1 9:30-11:00 コロコロボール×カラフル絵画
2 13:00-15:30 自由なヒトの色とカタチ

7/27 3 9:30-12:30 ミニ漆喰シーサーづくりに挑戦！
4 14:00-17:00 『対話による鑑賞』おしゃべりしながら鑑賞してみよう！

7/29 5 10:00-11:30 石、石！層物と歯をめぐる層状ツアー
6 13:00-14:30 洞窟遺跡の層状物を調査せよ！

7/30 8 10:00-11:30 ソノツボの虫かごづくり
9 10:00-11:30 道の館こころ！

7/31 10 13:00-14:30 道の館こころ！

夏休み！こどもフェスタ 2025 ②



● 「コロコロボール×カラフル絵画」



● 「自由なヒトの色とカタチ」

夏休み！こどもフェスタ 2025 ③



● 「ミニ漆喰シーサーづくりに挑戦！」



● 「『対話による鑑賞』おしゃべりしながら鑑賞してみよう！」

OKINAWA アートワークショップ 2025 ①

沖縄県立博物館・美術館のアトリエには、充実した造形活動が行えるスペースがあり、様々な創造活動を体験することができる。2017 年度より、沖縄の地域素材を生かした、子どもも大人も楽しめるワークショップを実施している。今年度は、『さあ、行こう！美術館へ！はじめの一步を踏み出そう！～美術館で「作品を見る楽しさ・絵を描いたり、ものをつくる喜び」を感じてみよう！～』をテーマに、沖縄の地域素材を生かした内容と、県内で活躍する作家をお招きし、ものづくりの楽しさを感じることでできるワークショップを開催することができた。

日程	内容	講師名	参加者数 (人)
1 9月13日(土)	廃素材と戯れたい 芯篇	toncati (瀧田冴子氏)	8
2 11月15日(土) 11月16日(日)	漆喰シーサーづくりに挑戦!	大城幸祐氏 (現代の名工) 沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合の皆さん	15
3 12月21日(日)	干支紅型でお正月支度	城紅型染工房 (山城祥子氏・吉濱 愛氏)	15
4 2月21日(土)	美術館ボランティアさんと、ゆんたくしなが作品鑑賞	鑑賞ボランティアの皆さん	3

OKINAWA 2025 アートワークショップ

『さあ行こう美術館へ！はじめの一步を踏み出そう！～観る楽しさ・描くおもしろさ・つくる喜びを感じよう～』
美術館で作品を観たり、絵を描いたり、何かをつくった経験はありますか？
おさきゅーでは様々なワークショップで、あなたの『はじめの一步』を応援します！

9/13(土)「廃素材と戯れたい 芯篇」

廃材やゴミって聞くとなんか怖いって思いませんか。でもそこから素敵なインテリア雑貨ができればいいですよね。ラップやテープの端、木っ端を使って廃材から生まれるインテリア雑貨(花瓶・フォトフレーム)にチャレンジ！

講師 toncati (瀧田冴子氏)
時間 10:00～12:00
対象 18歳以上
定員 10人
参加費 1,500円

11/15-16(土・日)「漆喰シーサーづくりに挑戦！」

高さ約50cmの本格的な漆喰シーサーづくりに挑戦しよう。職人の皆さんが丁寧に教えてくれますよ！

講師 山城幸祐さん (現代の名工)
大城幸祐さん (現代の名工)
沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合の皆さん

時間 10:00～15:00 (12:00からお昼休憩)
対象 小学生～一般
定員 15人 (必ず2日間参加できる方)
参加費 2,800円
受付 10/15(水)～10/19(日)

※漆喰シーサーは陶器で参加者を決定します。
※締切後、10/28(木)までに掲載された方へご連絡します。
※受付期間にお申込みください。
※募集された方へのご連絡は行いません。
※出来上がったシーサーは当館エントランスホールで展示会を開催します。11/18(火)～11/20(日)

12/21(日)「干支紅型でお正月支度」

来年の干支は「年(ウマ)！自分のつくったカラフルな琉球紅型で楽しいお正月を迎えよう！

※タペストリー用の糊と本と紐が付いてきます。
※画像は已年の作品です。

講師 吉濱 愛さん 山城祥子さん (城紅型染工房 <すくひんがなそめこうぼう>)
時間 14:00～16:00
対象 5才～一般 (未成年者は保護者同伴)
定員 15人
参加費 3,900円

2/21(土)「美術館ボランティアさんとゆんたくしながら作品鑑賞！」

『美術館でおしゃべりしてもいいの？大丈夫ですよ！おさきゅーの鑑賞ボランティアと一緒に「対話による鑑賞」を体験してみませんか！』

進行 美術館鑑賞ボランティア
時間 10:00～11:00
対象 小学生～一般
定員 15人
会場 美術館コレクションギャラリー (15名からコレクションギャラリーへ入館で受付)
参加費 無料 (コレクション展の当日券が必要)

会場 県民アトリエ、こどもアトリエ他
受付 実施日の1か月前から、電話・来館 (総合案内)にて受付
※漆喰シーサーのみ抽選となります。(他は先着順)
※漆喰シーサー、紅型は汚れてもいい服装でご参加ください。

詳しくはこちら→

あなたの沖縄に出会う
沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

【お問合せ】099-941-8200 (代電)
【開館時間】9:00-18:00 (金・土は20:00まで)
【休館日】月曜日(月曜日の場合は翌平日休館)



OKINAWA アートワークショップ 2025 ②



●「廃素材と戯りたい 芯篇」



●「漆喰シーサーづくりに挑戦！」

OKINAWA アートワークショップ 2025 ③

OKINAWA アートワークショップ 2025 ③



● 「干支紅型でお正月支度」



● 「美術館ボランティアさんと、ゆんたくしながら作品鑑賞」

アートコンクール

2017年より、県内の児童・生徒にアートコンクールへの参加の機会を提供し、親しめる美術館づくりを目指している。今年度は、テーマを「幸せ」として募集したところ、901点の素晴らしい作品が集まった。作品の中から特に色彩豊かで独創的な作品が入賞し、11月1日に表彰式を挙行政した。当日は、入賞者のご家族にもご列席いただき、晴れやかな表彰式となった。

【最優秀作品】



■小学校 1・2・3年生の部
萩原奏志（中城村立津覇小 3年）



■小学校 4・5・6年生の部
喜久村まむ（那覇市立さつき小 5年）



■中学校の部
金城彩華（那覇市立古蔵中 3年）



■特別支援の部
島袋由菜（県立那覇みらい支援学校 高等部 1年）



■高校の部
上原純菜（県立小禄高 2年）



●表彰式の様子



アートコンクール審査講評

(応募総数 901 点)

今年のテーマは「幸せ」。自らの身の回りを見渡した時、また、自分自身と向き合った時、あなたが「幸せ」を感じるのはどんな時や、どんなことでしょうか？さらに、なぜそれを幸せだと思い、感じるのでしょうか？皆さんの思う「幸せ」を絵にして表現するといったどんな作品が集まってくるのだろう？と、私たちはとてもワクワクした気持ちで作品の応募を待っていました。

集まった作品はどれも素晴らしく、家族との穏やかな時間、友人と何気ない会話をしている放課後の様子、部活動や趣味、好きな動物やペットと過ごしている癒しの時間、おいしいものを食べたり、ゆったりとした昼寝の様子など、それぞれの思い描く「幸せ」の形は本当に様々で、審査員の先生方も思わず笑顔になり、審査会場には、たくさんの「幸せ」が溢れているように感じました。

画材や表現方法も多種多様で、鉛筆やペン、クレヨンや色鉛筆、絵の具、紙や写真を貼り付けたコラージュ等で表現したり、デジタル画もみられ、それぞれの画材や技法の特性を生かしながら、画面いっぱいに「幸せ」が表現されていて、今年は、皆さんから「幸せ」の御裾分けをいただいたような不思議な気持ちになりました。

今年もアートコンクールが開催できたことは、応募していただいた児童・生徒の皆さんはもちろんのこと、ご家族の皆さん、学校の先生方、並びに各団体の関係者の皆さんのお力添えのおかげだと心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。これからも当館は、「アートと出会い、人と出会い、自分自身と出会う場」として、多くの展覧会や催事等を通し、皆さんにたくさんの「幸せ」をお届けしていきたいと思えます。これからも美術館へ足を運んでいただきますよう宜しくお願い致します。 美術館教育普及担当 玉城早苗

【小学校の部】(応募数 236 点)

那覇市立安謝小学校 校長 大川 剛 先生

小学校の部では、低学年 102 点、高学年 134 点の応募がありました。低学年の部では自分の好きな遊びや好きな動物など、いきいきとした表情で描かれているのが印象的でした。高学年の部では、自分自身の癒やしなど、心の幸せをテーマにした作品が多く見られた印象がありました。どの作品にも共通して見られることは、明るい色彩を使って、「幸せ」を画面いっぱいに表現しており、楽しい作品が多いと思えました。

【中学校の部】(応募数 280 点)

那覇市立石嶺中学校 美術科 教諭 仲西依里子 先生

今回の『幸せ』というテーマに対して、日常の中にある小さな幸せや心の温かさを見つめる視点が表現されている作品が多くありました。自分の素の姿や、家族との時間。友人やペットなど、中学生の大切な日々の何気ない一瞬に気づき描くことで、作品からは優しい雰囲気伝わってきました。また細部まで丁寧に描き込むことで、見る側にも『幸せ』に込められた思いが伝わってきました。これからも自分の『幸せ』を探し、作品に自分の思いを込めて表現して欲しいと思えます。

【高校の部】(応募数 212 点)

沖縄県立真和志高等学校 美術科 教諭 佐々木郁也 先生

テーマ「幸せ」に対して多様な解釈と表現が見られ、作品ごとの違いを楽しむことができました。構成や描き込みの密度、タイトルやコメントなどからも、作者自身の考えや感情がしっかりと読み取れました。全体としては、日常の中の小さな幸せや身近な出来事を丁寧に描いた作品が多く、素直な感性が光っていました。一人ひとりの強い思いが伝わってくる作品群で、それぞれの「幸せ」を感じ取る貴重な時間となりました。

【特別支援の部】(応募数 173 点)

沖縄県立美咲特別支援学校 美術科 教諭 和多野千帆 先生

今回のテーマは「幸せ」。各作品からたくさんの幸せがあふれていて、見る人を笑顔にする魅力がありました。車や食べ物、ペットや友達、家族など具体的に幸せを表現した作品から、色や線、貼り絵などで表現することそのものが幸せである作品があり、作者の世界観が豊かに表れていました。これからも、感じたことを色やかたちにのせて、自由に表現してってください。

移動展 in 恩納村

沖縄県立博物館・美術館は過去から長い年月をかけて収集した多数の資料を収蔵している。移動展は、当館に足を運ぶことが難しい離島や遠隔地の方々にも、県民の財産である博物館・美術館の資料や作品を楽しんでいただける場となっている。沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図るとともに、美術に親しむ場を提供することも目的としており、今年度は沖縄本島恩納村で23日間にわたり開催し、多くの方に足を運んでいただいた。

- 【主催】 沖縄県立博物館・美術館、一般財団法人 沖縄美ら島財団
- 【共催】 恩納村博物館
- 【実施地域】 恩納村
- 【会期/時間】 令和8年1月16日(金)～2月11日(水) 9:00～17:00
- 【会場】 恩納村博物館
- 【展示内容】 ①複製画「八重山風景(大嶺政寛)」「NOW・・・(1)(川平恵造)」の展示
②「展覧会展示パネル」展覧会概要パネル等の展示
- 【来場者数】 2907人



●開会式の様子



●展示会場の様子

コレクション展・企画展の紹介、及び関連催事について

令和6・7年度 コレクション展
 「岸本一夫 オキナワデザイン」「沖繩の彫刻たち」「沖繩美術の流れ」
 会期：令和7年1月25日（土）～10月19日（日）

「岸本一夫 オキナワデザイン」

オリオンビールや琉球放送（RBC）のロゴ制作などで知られる岸本一夫（1935—）。本展では、その原点となった油彩画をはじめとする新収蔵作品を展示。併せて、ロゴや商品、広告などのデザイン制作過程が見えるドローイングも一挙公開！誰もが一度は目にしたことがある岸本デザインの魅力を紹介した。

「沖繩の彫刻たち」

沖繩の近代彫刻は戦後、立体素材の入手がままならなかった当時、石膏で制作され、人物像が主流であった。彫刻表現も東京藝大で学んだ玉那覇正吉の影響が大いにあった。1951年、第3回沖展で彫刻部門が開設され、後に彫刻研究会「槐会（えんじゅかい）」の発足により沖繩の彫刻界が活気づいてきた。大きな転換期をもたらしたのが1986年の沖繩県立芸術大学の開学である。県外から多くの指導者が訪れることにより作風がグローバル化され、人物像から抽象的な造形へと多岐にわたり、様々な立体作品が制作されるようになった。

また、県外や海外を拠点に活動する沖繩県出身の作家や、海外で生まれ育ち沖繩に帰還して制作する作家が紹介されるなど、多種多様な作品を目にする機会が増えた。コレクションギャラリー2では、当館が収蔵する立体作品の中から「沖繩の彫刻たち」と題して、戦後沖繩の近代彫刻に焦点をあてて紹介した。

■「沖繩の彫刻たち」学芸員講座+キュレータートーク

「美術品の保存修復について～保存修復の現場から～」

【日 時】令和7年8月16日（土）14：00～15：30

【会 場】美術館講座室・美術館コレクションギャラリー2

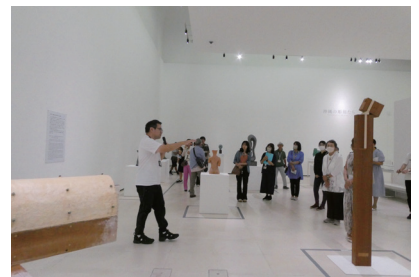
【講 師】梶原正史（展覧会担当学芸員）

【参加者】19人

【内 容】美術館講座室で展示されている彫刻や、修復について講話を行った後、展示室にて解説を行った。彫刻作品や、修復に対する興味・関心を高める内容とした。

「沖繩美術の流れ」

沖繩には、その歴史や風土から育まれた独特な文化があり、沖繩の美術も時代や置かれた立場、状況に多大な影響を受けながら培われてきた。本展では、沖繩の近現代の美術作品をその変遷とともに辿った。



令和7年度コレクション展

「やさしいにっぽん人」「屋良朝彦展 My Space 光と影」「沖縄美術の流れ」

会期：令和8年2月11日（水）～9月6日（日）

デジタル化事業成果作品 東陽一

「やさしいにっぽん人」上映

「やさしいにっぽん人」(1971年/118分)は、沖縄戦を生き延びた青年が、自分自身を見つめ直すために旅へと踏み出す姿を描いた映画で、監督・東陽一(1934—2026)が劇映画へ向かう原点となった作品である。このたび、長期保存を目的とし、新たにデジタル化及び修復を行った。その成果を初めて上映する。



「屋良朝彦展 My Space 光と影」

県内美術を牽引してきた、屋良朝彦作品の変遷を一望する展覧会である。屋良の最も初期の「My Space 光と影シリーズ」は、打ち捨てられたような日常の風景を、光と影のコントラストで繊細に描いたものである。祖国復帰を跨ぐ喧騒の時代に在りながら、時が止まったような静寂に満ちた表現は、反語のように当時の沖縄を語る。その後の「ラッピングシリーズ」「ドリッピングシリーズ」「ミクストメディアシリーズ」「メタルシリーズ」と続く作品の変化を楽しんでいただきたい。



「沖縄美術の流れ」

沖縄には、その風土や歴史から生まれてきた独特な文化があり、美術も時代や置かれた状況に大きく影響されながら培われてきた。コレクションギャラリー3では、「沖縄美術の流れ」として、戦前、戦後復興期、本土復帰後、現代美術、そして移民に章を分け、沖縄の近現代の美術作品を、その変遷とともに辿り紹介する。

企画展 沖縄戦後 80 年企画 「戦ぬ前 — 沖縄文化の近代 —」

会期：令和 7 年 11 月 1 日（土）～令和 8 年 2 月 1 日（日）

戦前期の沖縄の美術、工芸、メディアを取り上げ、近代の沖縄をめぐる表現の変遷を概観することで、文化と戦争の相関を考える展覧会。近年は「新しい戦前」という言葉が用いられるが、本当に新たな戦争に向かっているのかを考える前提として、「かつての戦前」の姿を、私たちはどれほど知っているだろうか。戦争が近づくとどんなことが起こり、そして戦争で何が失われてしまったのかを、先人がたどった表現の道から考える試みとした。

展示は 3 章に分け、第 1 章「世替わりや 世替わりや」は琉球処分から日露戦争頃までを対象とし、絵師の世替わり後の仕事などを取り上げた。第 2 章「往来 往来」は、日中戦争開戦前までの間に花開いた近代工芸や、本土へ進学した画家たちを紹介。第 3 章「イクサヘ イクサヘ」では、日中戦争から敗戦までの統制による制作への影響をみた。

戦争で多くの作品や研究資料が失われ、「戦ぬ前」の全体像をとらえる事は困難であるが、奇跡的に残された作品を通して地域の文化を見つめ、改めて戦争について考える内容とした。

（大城さゆり）

【関連催事】

1. オープニング・ギャラリーツアー

【日 時】 令和 7 年 11 月 1 日（土）10:00～11:00

【会 場】 美術館コレクションギャラリー 1・2・3

【講 師】 大城さゆり（展覧会担当学芸員）

【参加者】 10 人

【内 容】 担当学芸員が、作品と展覧会について解説を行った。



●ギャラリーツアーの様子



2. 学芸員講座 + キュレータートーク

【日 時】令和7年11月29日(土) 14:00～15:30
 【会 場】美術館講座室、美術館コレクションギャラリー1・2・3
 【講 師】大城さゆり(展覧会担当学芸員)
 【参加者】18人
 【内 容】担当学芸員が、作品と展覧会について解説を行った。



●学芸員講座の様子

3. 戦前映像上映会

【日 時】令和7年12月7日(日) 13:30～16:30
 【会 場】3階講堂
 【講 師】世良利和氏(沖縄県立芸術大学芸術文化研究所 共同研究員)
 真喜屋 力氏(映画監督)
 大城さゆり(展覧会担当学芸員)
 【参加者】41人
 【内 容】戦前の映画3本の上映を行い、上映後は講師と共に、戦前の沖縄について、映像から分かる情報をもとにトークを行った。



●上映会の様子

4. トークセッション

【日 時】令和7年12月13日(土) 14:00～16:00
 【会 場】3階講堂
 【講 師】新城郁夫氏(琉球大学教授)
 岡本亜紀氏(浦添市美術館学芸員)
 栗国恭子氏(沖縄県立芸術大学芸術文化研究所 共同研究員)
 大城さゆり(展覧会担当学芸員)
 【参加者】31人
 【内 容】戦前の美術工芸や、文学、社会情勢等、講師が展覧会を観て伝えたいポイントを深掘りするトークセッションを行った。



●トークセッションの様子

5. ギャラリートーク

【日 時】令和8年1月24日(土) 14:00～15:30
 【会 場】美術館コレクションギャラリー(ホワイエ)
 【講 師】三島わかな氏(近現代日本音楽史研究・メディア文化研究者)
 山城政幸氏(蓄音機コレクター)
 大城さゆり(展覧会担当学芸員)
 【参加者】49人
 【内 容】戦前のレコードの音色を蓄音機で聞きながら、当時の音楽から感じられる沖縄の様子や、レコード針などの機材等についても解説を行った。



●ギャラリートークの様子

企画展 沖縄戦後80年・ベトナム戦争終結50年祈念「ベトナム、記憶の風景」

会期：令和7年11月22日（土）～令和8年1月18日（日）

沖縄終戦80年という節目に開催した本展は、福岡アジア美術館の巡回展に当館の19点を加え、ここ沖縄だからこそ語りうる物語を新たに立ち上げた。ベトナムと沖縄は、「戦争の記憶」と「周縁化された地域性」を抱え、植民地主義や冷戦、基地問題といった歴史の力に翻弄されてきた。その経験は、遠く離れた二つの地域を静かに結びつけている。

フランス植民地下のインドシナ美術学校を源流とするベトナム近現代美術は、絹絵や漆絵などの伝統技法に西洋美術教育が重なり、複雑な文化的混交を生み出した。その歩みは、外来の美術制度を受け止めつつ、独自の表現を模索した沖縄の近現代美術とも響き合う。

城間喜宏《亜熱帯の島から》はB52墜落事故の破片を貼り込み、沖縄がベトナム戦争の後方支援基地であった現実を鋭く示す。與那覇朝大《ベルベット・ペインティング》は軍事経済下の女性像を通して社会の陰影を照らし、石川文洋の写真は南ベトナムの民衆の戦場を捉え、沖縄戦の記憶と深く共鳴する。

来館者からは「胸がざわついた」「距離が縮まった」との声が寄せられた。本展は、両地域の歴史が交差する地点に立ち、語られざる声に耳を澄ませる場となった。（豊見山 愛）

【関連催事】

1. オープニング・ギャラリートーク

【日 時】 令和7年11月22日（土）10:00～11:00

【会 場】 美術館企画ギャラリー1・2

【講 師】 兼原ふみ氏（福岡アジア美術館学芸員・展覧会担当学芸員）
豊見山 愛（当館担当学芸員）

【参加者】 56人

【内 容】 本展覧会企画者・兼原ふみ氏（福岡アジア美術館学芸員）と共に、ベトナムと沖縄の近現代美術における魅力を読み解いた。



●兼原ふみ氏



●豊見山 愛学芸員



●子ども用ワークシート

2. シンポジウム「50年と80年—ベトナムと沖縄が語る芸術と平和」

【日 時】令和7年11月23日(日) 14:00～17:00

【会 場】博物館講座室

【登壇者】石川文洋氏(報道写真家)

栗原ふみ氏(福岡アジア美術館学芸員・展覧会担当学芸員)

豊見山 愛(当館担当学芸員)

【ファシリテーター】若林千代氏(沖縄大学教授)

【参加者】61人

【内 容】当館と、長野の石川文洋氏のご自宅をリモートで繋ぎ、本展企画者、福岡アジア美術館・栗原ふみ氏と、豊見山 愛、そして、ファシリテーターの若林千代氏が、ベトナムと沖縄の芸術を通して、平和の可能性を探るシンポジウムとなった。



●シンポジウムの様子①



●シンポジウムの様子②

3. 学芸員によるキュレータートーク

【日 時】令和8年1月10日(土) 14:00～15:30

【会 場】美術館講座室、企画ギャラリー1・2

【講 師】豊見山 愛(当館担当学芸員)

【参加者】21人

【内 容】担当学芸員が、作品と展覧会について解説を行った。



●キュレータートークの様子

■「ベトナム、記憶の風景」イベント

ベトナムの昔話『お月様のクオイおじさん』紙芝居上演

【日 時】令和7年11月1日(土) 15:00～15:45

【会 場】1階エントランス

【講 師】ブイ・ティ・ト・フェン氏

村上呂里氏(琉球大学教授)

【参加者】34人

【内 容】「ベトナム、記憶の風景」のイベントとして、おきみゆー誕生祭でベトナムの民話を紙芝居で上演した。



●紙芝居上演の様子

企画展「つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45人ーたとえば、「も」を何百回と書く。」

会期：令和8年2月22日（日）～5月10日（日）

本展で展示される作品は、2010年、パリのアル・サン・ピエール美術館で開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」展に出品され、その後、公益財団法人日本財団が収蔵、保管していたものである。これら作品は、さらなる活用を目的に、2023年、滋賀県立美術館に寄贈され、同館の40周年記念展覧会として紹介され好評を博した。さらに多くの方々にアール・ブリュット作品の素晴らしさに触れていただきたいと巡回が検討され、北海道立函館美術館での開催に引き続き、沖縄県立博物館・美術館で展覧会を開催することとなった。

当館は開館の2007年度に、企画展「素朴の大砲 アートキャンプ2008展+マリオ・デル・クルト写真展」をボーダレスアートミュージアムNOMA様、アートキャンプ2001実行委員会様、社会福祉法人若竹福祉会様のご協力のもとで開催したことに始まり、アール・ブリュット作品の調査研究、収集、展示、支援者の皆様との連携を続けてきた。

そのなかで障害も持ちながらユニークな作品をつくり続けているたくさんの作家の皆様と出会い、その活動を支援している社会福祉法人の皆様とも出会い、全国的にも特出した特別支援学校の先生方の指導とも出会った。

その成果のひとつとして、当館が所蔵している喜舎場盛也氏の作品も、沖縄展では特別展示し、加えて映像等で沖縄のアール・ブリュットの紹介も行う。また、県民ギャラリーにおいて、アートキャンプ2001実行委員会、社会福祉法人若竹福祉会とともに「アートキャンプ2026 素朴の大砲」も開催した。（前田比呂也）

【関連催事】

1. オープニング・ギャラリートーク

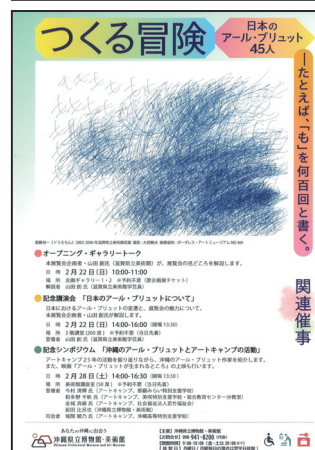
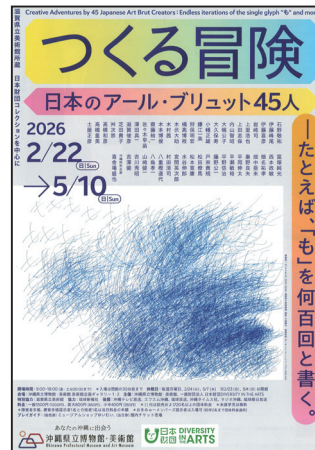
【日 時】令和8年2月22日（日）10:00～11:00

【会 場】美術館企画ギャラリー1・2

【講 師】山田 創氏（滋賀県立美術館・展覧会担当学芸員）

【参加者】48人

【内 容】本展覧会企画者の山田 創氏が、展覧会のみどころを解説した。



●開会式の様子



●ギャラリートークの様子

2. 記念講演会「日本のアール・ブリュットについて」

【日 時】令和8年2月22日（日）14:00～16:00

【会 場】3階講堂

【登壇者】山田 創氏（滋賀県立美術館・展覧会担当学芸員）

【参加者】26人

【内 容】日本におけるアール・ブリュットの変遷と、展覧会の魅力について、本展覧会企画者の山田 創氏が解説した。



●記念講演会の様子



●山田 創氏



●質疑応答の様子

3. 記念シンポジウム「沖縄のアール・ブリュットとアートキャンプの活動」

【日 時】令和8年2月28日（土）14:00～16:30

【会 場】美術館講座室

【登壇者】今村清輝氏（アートキャンプ、那覇みらい支援学校）

和多野千帆氏（アートキャンプ、美咲特別支援学校・総合教育センター分教室）

金城真緒氏（アートキャンプ、社会福祉法人若竹福祉会）

前田比呂也（沖縄県立博物館・美術館）

【参加者】31人

【内 容】映画『アール・ブリュットが生まれるところ』の上映を行い、アートキャンプ25年の活動を振り返りながら、沖縄のアール・ブリュット作家を紹介した。



●今村清輝氏、和多野千帆氏



●シンポジウムの様子



●金城真緒氏、前田比呂也

令和7年度美術館事業報告

教育普及事業

※敬称略

①学芸員講座+キュレータートーク.....58人参加

	月日	曜日	内容	講師名	参加者(人)
1	8月16日	土	「沖縄の彫刻たち」学芸員講座+キュレータートーク 美術品の保存修復について～保存修復の現場から～	梶原正史	19
2	11月29日	土	「戦ぬ前-沖縄文化の近代-」関連催事 学芸員講座+キュレータートーク	大城さゆり	18
3	1月10日	土	「ベトナム、記憶の風景」関連催事 学芸員講座+キュレータートーク	豊見山 愛	21

②ギャラリーツアー・ギャラリートーク.....163人参加

	月日	曜日	内容	講師名	参加者(人)
1	11月1日	土	「戦ぬ前-沖縄文化の近代-」 オープニング・ギャラリーツアー	大城さゆり	10
2	11月22日	土	「ベトナム、記憶の風景」 オープニング・ギャラリートーク	栗原ふみ(福岡アジア美術館) 豊見山 愛	56
3	1月24日	土	「戦ぬ前-沖縄文化の近代-」 ギャラリートーク	三島わかな(近現代日本音楽史 研究・メディア文化研究者) 山城政幸(蓄音機コレクター) 大城さゆり	49
4	2月22日	日	「つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45人-たとえば、「も」を何回と書く。」 オープニング・ギャラリートーク	山田 創(滋賀県立美術館)	48

③シンポジウム・講演会・上映会.....224人参加

	月日	曜日	演題	講師名	参加者(人)
1	11月1日	土	「ベトナム、記憶の風景」イベント ベトナムの昔話『お月様のクオイおじさん』 紙芝居上演	ブイ・ティ・ト・フエン 村上呂里(琉球大学教授)	34
2	11月23日	日	「ベトナム、記憶の風景」シンポジウム 「50年と80年-ベトナムと沖縄が 語る芸術と平和」	石川文洋(報道写真家) 栗原ふみ(福岡アジア美術館) 若林千代(沖縄大学教授) 豊見山 愛	61
3	12月7日	日	「戦ぬ前-沖縄文化の近代-」 戦前映像上映会	世良利和(沖縄県立芸術大学 芸術文化研究所 共同研究員) 真喜屋 力(映画監督) 大城さゆり	41
4	12月13日	土	「戦ぬ前-沖縄文化の近代-」 トークセッション	新城郁夫(琉球大学教授) 岡本亜紀(浦添市美術館) 栗国恭子(沖縄県立芸術大学 芸術文化研究所 共同研究員) 大城さゆり	31

5	2月22日	日	「つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45人 -たとえば、「も」を何百回と書く。」 記念講演会「日本のアール・ブリュットについて」	山田 創 (滋賀県立美術館)	26
6	2月28日	土	「つくる冒険 日本のアール・ブリュット 45人 -たとえば、「も」を何百回と書く。」 記念シンポジウム「沖縄のアール・ブリュットとアートキャンプの活動」	今村清輝 (アートキャンプ、 那覇みらい支援学校) 和多野千帆 (アートキャンプ、 美咲特別支援学校・総合教育 センター分教室) 金城真緒 (アートキャンプ、 社会福祉法人若竹福祉会) 前田比呂也	31

④OKINAWAアートワークショップ2025.....41人参加

月日	曜日	内容	講師名	参加者(人)
9月13日	土	廃素材と戯りたい 芯篇	toncati (瀧田冴子)	8
11月15日 11月16日	土 日	漆喰シーサーづくりに挑戦!	大城幸祐 (現代の名工) 沖縄県琉球赤瓦漆喰施工 協同組合の皆さん	15
12月21日	日	干支紅型でお正月支度	山城祥子、吉濱 愛 (城紅型染工房)	15
2月21日	土	美術館ボランティアさんと ゆんたくしながら作品鑑賞!	美術館鑑賞ボランティア	3

⑤夏休みこどもフェスタ2025.....38人参加

月日	曜日	内容	講師名	参加者(人)
7月26日	土	コロコロボール×カラフル絵画	大中原千陽 (小田原短期大学 助教) 本村佳奈子 (沖縄県立芸術大学 非常勤講師)	4 (4組)
		自由なヒトの色とカタチ	石垣克子 (画家)	8
7月27日	日	ミニ漆喰シーサーづくりに挑戦!	田端 忠、堀切元気 (沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合)	20
		『対話による鑑賞』おしゃべり しながら鑑賞してみよう!	玉城早苗	6

⑥慰霊の日関連催事.....68人参加

月日	曜日	演題	講師名	参加者(人)
6月21日	土	「おきみゅーで平和について考えよう！」 美術館絵本読み聞かせ	金城明美 (絵本作家)	68

⑦ミュージアムツアー.....24人参加

月日	曜日	担当	参加者(人)
6月7日	土	梶原正史(保存修復)	12
7月19日	土	梶原正史(保存修復)	12

⑧第9回アートコンクール テーマ「幸せ」.....応募総数 901 作品

- ・内 訳 小学校低学年の部 102 点、小学校高学年の部 134 点、中学校の部 280 点、高等学校の部 212 点、特別支援の部 173 点
- ・審査員 大川 剛(那覇市立安謝小学校 校長)、仲西依里子(那覇市立石嶺中学校 教諭)
佐々木郁也(沖縄県立真和志高等学校 教諭)、和多野千帆(沖縄県立美咲特別支援学校 教諭)
- ・作品展 10月28日(火)~11月16日(日)(1階エントランス)

⑨教職員講座、教職員研修、その他研修の受け入れ.....95人参加

月日	曜日	内容	担当	参加者(人)
7月22日	火	東村立高江小学校「校内研修」(出前講座)	玉城早苗	13
7月25日	金	那覇市立城東小学校「校内研修」	前田比呂也	27
8月13日	水	令和7年度 「中堅教諭等資質向上研修・社会体験研修」	玉城早苗	3
8月14日	木	第62回 造形教育研究大会(沖縄県造形教育連盟)	玉城早苗	28
8月15日	金	令和7年度 県民カレッジ 「沖縄県立博物館・美術館バックヤードツアー」	玉城早苗	24

⑩美術館「夏休み教職員研修」.....54人参加

月日	曜日	内容	講師名	参加者(人)
8月7日 (小・中学校)	木	美術館 夏休み教職員研修	玉城早苗 豊見山 愛 大城さゆり 前田比呂也	20
8月8日 (高・特支)	金		大中原千陽 (小田原短期大学 助教) 本村佳奈子 (沖縄県立芸術大学 非常勤講師)	25
8月9日 (幼児教育)	土			9

⑪美術館ボランティア研修会.....140人参加

回	月日	曜日	内容	講師名	参加者(人)
1	4月23日	水	ボランティア証交付、職員紹介、今年度のスケジュール確認、美術館鑑賞の手引きについて	玉城早苗	11
2	5月28日	水	館外研修(那覇市歴史博物館館外研修)	山田葉子 (那覇市歴史博物館 会計年度任用職員 主任学芸員)	15
3	6月25日	水	当美術館における「対話による鑑賞」について	前田比呂也	17
4	7月16日	水	コレクションギャラリー 各担当学芸員による解説	亀海史明 梶原正史 大城さゆり	15

5	8月16日	土	「沖縄の彫刻たち」学芸員講座+キュレータートーク 美術品の保存修復について～保存修復の現場から～	梶原正史	12
6	9月10日	水	先輩ボランティアから学ぶ	鈴木 仁、與儀美奈子	14
7	10月29日	水	対話による鑑賞実践	玉城早苗	8
8	11月29日	土	「戦前前～沖縄文化の近代～」 学芸員講座+キュレータートーク	大城さゆり	5
9	12月17日	水	「戦前前～沖縄文化の近代～」対話による鑑賞実践	玉城早苗	9
10	1月10日	土	「ベトナム、記憶の風景」学芸員講座+キュレータートーク	豊見山 愛	10
11	2月18日	水	「沖縄美術の流れ」展示解説、対話による鑑賞実践	玉城早苗	10
12	3月11日	水	対話による鑑賞実践、一年のまとめ	玉城早苗	14

⑫鑑賞プログラム.....788人参加

	月日	曜日	学校名	学年	参加者(人)
1	7月17日	木	那覇市教育委員会・教育相談課(あけもどろ学級)	中3年	5
2	9月24日	水	那覇市教育委員会・教育相談課(きら星学級)	中2年	2
3	10月1日	水	Hope International Academy Okinawa	小3年	14
4	11月5日	水	沖縄市立諸見小学校(出前授業)	3年	63
5	11月13日	木	八重瀬町立新城小学校(出前授業)	4年	67
6	11月27日	木	八重瀬町立新城小学校(ボランティア対応)	4年	66
7	12月4日	木	那覇市立城北中学校(特別支援学級)	1～3年	17
8	1月30日	金	那覇市立石嶺小学校(出前授業)	3年	139
9	2月12日	木	沖縄県立浦添工業高等学校(デザイン科)	1年	76
10	2月13日	金	那覇市立石嶺小学校	3年	131
11	2月13日	金	沖縄県立芸術大学(教育学集中講義)	3・4年・院生	41
12	2月25日	水	沖縄県立大平特別支援学校(中学部)	1年	39
13	2月26日	木	沖縄県立美咲特別支援学校 (総合教育センター分教室・高等部)	2・3年	30
14	3月4日	水	糸満市立米須小学校・大度分校	4～6年	12
15	3月5日	木	八重瀬町立新城小学校	4年	64
16	3月13日	金	糸満市立三和中学校・大度分校	1～3年	22

⑬学芸員実習(沖縄県立芸術大学、京都芸術大学).....11人対応

月日	曜日	実習内容(午前)	実習内容(午後)
8月18日	月	開講式、オリエンテーション、 学校支援プログラム等	アートカード・対話による鑑賞の実践、その他
8月19日	火	資料収集の概要、展示の実際	資料調査実習(平面資料)、資料の分類情報処理
8月22日	水	IPM 講習、保存管理の概要	修復の実際、修復の実習
8月21日	木	展示公開の概要、展示公開の実際	資料調査実習(写真+二次資料)
8月22日	金	美術館学芸員の調査・研究、調査研究の実際	解説パネル作成
8月25日	月	課題研究(グループワーク)	課題研究(グループワーク)
8月26日	火	課題研究(グループワーク)	課題研究(グループワーク)
8月27日	水	課題研究(グループワーク)	課題研究(グループワーク)
8月28日	木	課題研究(グループワーク)	課題研究(グループワーク)
8月29日	金	共通課題研究の発表、閉講式	実習のまとめ→実習記録簿等の提出

[さいごに]

戦後 80 年を迎えたというのに、相変わらず世界のあちこちで、戦争や戦闘が繰り返されています。物価は高くなっていくばかりで、経済状況は悪化の一途を辿り、ちっとも豊かになんてなりません。平気で人を傷つけたり、自分を傷つけたりする者もあり、混沌とするこの世の中で、私たちはいったい何に「幸せ」を感じ生きているのでしょうか？

地震や森林火災、干ばつなどの自然災害、コロナ感染症等、人間の力ではどうにもならない出来事により、進むべき道が見えなくなることも多々ありますが、様々なことにアンテナを張り巡らせてみると、実は、日々のほんの些細な出来事や、隣人との会話の中から「幸せ」を感じる瞬間があるように私は思います。

私は、アートが好きです。作品を鑑賞することも、自分で何かを創り出すことも大好きです。アートにふれていると「幸せ」を感じます。そして、沖縄県立博物館・美術館で働くようになり、「対話による鑑賞」と出会い、人と話をしながら鑑賞することが面白いということに気づきました。同じ作品を観ても、「癒される」という方もいれば、「怖い」という方もいます。私と同じように感じる方もいれば、まったく違う見方をする方もいて、人それぞれの感じ方や考え方があって、見方は人それぞれでいいんだ！アートに正解はないけど、観た者の数だけ答えはあるのかもしれないと、改めて気づかされました。子どもや大人、様々な方々と対話をしていると「アートは本当に面白い！」と、心からそう思います。

展覧会の関連催事や、ワークショップの運営に携わる中で、作品制作を行った後のお客様の晴れやかで幸せそうな笑顔に、これまで何度となく出会ってきました。皆様の笑顔を見ていると、こちらまで幸せな気持ちになります。もしかしたら、「幸せ」は伝染するのかもしれない。自分が好きだな、楽しいなと思うことをしていると、人は幸せを感じ、そんな人を見ているこちら側も、幸せな気持ちになるのだと思います。

アート作品を制作し、戦争反対や世の中の不条理を訴える者がいたり、その作品を観て、その思いに共感する者がいたり、いや、そうじゃないと意見を述べる者がいたり。何かを訴えるためではなく、自分が楽しいから、表現することが好きだから、ただひたすらに没頭し作品制作を行う者もいるはず。いずれにしても作品から発せられるパワーのようなものを、観覧者はそれぞれに受け取っているに違いないと思います。そのパワーを感じながら作品を鑑賞し、他者と会話をする中で、相手に対し歩み寄ることができる。もしかしたら、アートは世界を平和に導くのではないか？そのようなアートの可能性を皆様に伝えていくことが、教育普及の役割ではないかと思います。

今後も、当美術館では「アートとは何か？」「美術館の役割とは何か？」と、問い続けながら、作品の見方や感じ方を楽しみ、訪れてくださる皆様にとって、当館が美術の楽しさや素晴らしさに「出会う場」となり、人と語り、自分自身をみつめ、新たな自分を「発見する場」となることを目指していきたいと思えます。

10 年後、50 年後、そして 100 年後の未来に「沖縄の文化・芸術」を繋げていくこと、さらには、一人でも多くの方が美術（アート）を身近に感じ、美術（アート）に親しみ、より多くの皆様が当館に足を運んでいただけるよう、次年度以降も楽しく充実した教育普及活動を展開し、ご提供できるよう取り組んでいきます。そして、今現在、当館がアートに親しむことのできる平和な環境にあることに感謝すると共に、戦争や紛争、自然災害等に見まわられている世界の全ての国と地域の方々に、一日も早く平穏な日々が訪れることを心より願ってやみません。

最後に、今年度もトークイベントやワークショップ等に関わっていただいた多くのアーティストや講師の皆様、展覧会関係者の皆様、そして美術館を支えていただいているボランティアの皆様、たくさんの方々のお力添えのおかげで、この報告書をまとめることができました。この場をお借りし、ご協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

令和7年度
沖縄県立博物館・美術館
《美術館教育普及報告書》

2026年3月31日

発行
沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
TEL 098-941-8200 (代表)
FAX 098-941-2392 (代表)

教育普及担当
玉城早苗 (沖縄県立博物館・美術館)
森谷美里 (沖縄県立博物館・美術館)
保久村智恵 (一般財団法人 沖縄美ら島財団)

データ作成
企画印刷 ハーツ
那覇市繁多川3丁目13番8号
TEL 098-835-3752
FAX 098-835-3754